

平成30年度 第1回学校評議員会 会議録

1 会議の名称

平成30年度岩手県立住田高等学校第1回学校評議員会

2 会議の構成

(1) 学校評議員

菅野 英子 氏	住田町社会福祉協議会
佐藤 清司 氏	会社員
佐藤 智一 氏	住田町立世田米中学校長
佐々木 純 氏	東海精密工業岩手事業所管理部部長代行
山内 米子 氏	主婦

(2) 学校職員

鈴木 広樹	校長
伊藤 正則	副校長
利府 崇	教務主任
三浦 天豪	総務主任
松田 隆宏	生徒指導主事
西出 和久	進路指導主事
大澤ゆかり	総務課

3 会議の開催

平成30年5月18日（金）14:30～15:40 [住田高等学校会議室] 評議員5人、学校職員7人

4 会議の次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 平成30年度学校経営計画について
- (4) 学校概況報告について
- (5) 意見交換
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

本校は今年度22名の新入生を迎えスタートした。2クラスの少人数学級とし、基礎基本の習得に重点を置いた学習をしている。昨年の進路決定率は100%である。部活動ではアーチェリー競技において、個人でインターハイ、国体に出場した。

今年度は創立70周年で同窓会を中心に記念事業を準備している。また、住田町では幼小中高が連携した文部科学省の研究開発学校事業が本格スタートする。

皆さんの忌憚なきご意見を頂戴したい。

(2) 意見交換

ア 評議員

町内からの入学者が少ないのが残念。中学生の状況を見ると、大学に行ける高校に進学する傾向がある。本校から大学に進学している現状を知らないのではないか。今後、町内の中学生が本校における大学への進学状況をきちんと理解し、本校に入学するようになってほしい。

スタディサプリを利用するためタブレットをリースしているが、校内でサプリを使う時間はあるのか。

学校側

生徒はタブレットやスマホを使い、学校でスタディサプリのデータをダウンロードした上で、自宅などで使っている。朝登校してからや自宅で夜に学習しているようである。

イ 評議員

学校側

Wi-Fi のセキュリティ対策が気になるが、どうなっているか。

評議員

パスワードを設定している。校内では視聴覚室だけで使えるようにしている。

学校側

個人のタブレットの持ち込みはよいのか。

評議員

持込は可能であるが、持ち込んでも視聴覚室でしか使えない。

学校側

タブレットが足りなくならないか。

ウ 評議員

足りなくなるくらい使ってほしいと考えている。在籍数を見ると町内の子供が減っている。20名を割った時の廃校が心配である。町が交通費を補助している成果の一つとして沿岸の方から来ている生徒が多いが、町内の生徒が入学するようにPRを工夫してほしい。

学校側

了解した。

エ 評議員

中学生の進路は、学年学級の雰囲気で決まる傾向がある。昨年度の中学生については、盛岡や東北本線沿線の高校に進学した生徒が多い。現在の中学生については、本校を希望する生徒が昨年度より多い状況である。

中高連携の方法について工夫する必要があるのではないか。案として、本校で行なっている出前授業を、従来のように高校側が町内中学校に出向いて実施するのではなく、本校に町内の中学生を呼んで実施するというはどうか。

また、地域文化選択講座を、研究開発学校事業で行なっている地域創造学と関連づけて実施するというはどうか。

中学生が進路を決める際の実態については、第一に高校卒業後の進路先で高校を考えること、次に部活動で考えること、というものである。

学校側 ただ今のご意見の内容については、今後校内で検討する。

オ 評議員

やはり生徒数が少ないことが心配である。自分の子供は、部活動で高校を選んだ。どうしても本校は部の数が少ない。

また、現実としていじめはなくならないと思うので、未然防止の取組及び適切な初期対応について頑張ってほしい。

学校側

了解した。

(3) その他

次回の開催日程は、平成31年2月18日（月）午後の予定であることを確認した。